

東京電力(株)福島第一原子力発電所3号機の定期検査中に発見されたトラブルに係る東京電力(株)からの報告について(中間調査状況について)

平成14年9月25日
原子力安全・保安院

東京電力(株)は、平成14年8月22日に発生した福島第一原子力発電所3号機(沸騰水型、定格出力78万4千キロワット)の制御棒駆動水圧系(注1)配管(以下、「当該配管」という。)のひび(同日、当院からプレス発表済み)について、当該配管全数の浸透探傷検査(注2)等が終了し当該ひびの全体状況が判明したため、その結果について以下のとおり本日(9月25日)当院に対し連絡があった。

1. 当該配管の格納容器内貫通部すべての282本(うち8本は予備)のうち242本にひびが見つかり、うち3本に貫通したものがあることがわかった。
2. 原因は、付着塩分による粒内型応力腐食割れ(注3)の可能性が考えられる。

当院は、今後とも東京電力(株)から調査状況について適宜聴取するとともに、同電力から提出される原因と対策に関する報告に対し評価を行うこととする。

(注1) 制御棒駆動水圧系とは、復水系統などから制御棒駆動機構に通常操作のため駆動水、スクラム時の高圧水などを供給する系統である。

(注2) 浸透探傷検査とは、試験体表面に開口しているキズに浸透液を浸透させ、指示模様を観察することによりひびなどの欠陥を調査する非破壊試験方法である。

(注3) 粒内型応力腐食割れとは、塩化物付着のような環境条件で生ずることが多く、結晶粒の内部を横切るような形で発生・伝搬する応力腐食割れの一種である。

(INESによる暫定評価)

基準1	基準2	基準3	評価レベル
-	-	0-	0-

8月22日の事象発生時に公表済み。

問合せ先：原子力防災課原子力事故故障対策室
内線4911 直通3501-1637